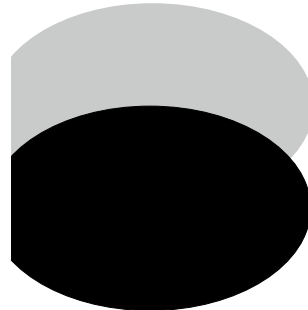


2014425

絵本学会 NEWS No.51

発行：絵本学会
発行日：2014年4月25日
編集：絵本学会広報委員会
絵本学会事務局：〒112-8681 東京都文京区目白台 2-8-1
日本女子大学児童学科 石井光恵研究室内
E-mail:ehon-g@xqe.biglobe.ne.jp
http://www.u-gakugei.ac.jp/ehon/index.html



絵本学会

第17回絵本学会大会
絵本とアート 絵本のつくり手たち、その創造力

ありがとう えほん すごいね えっほん!
攪上久子
各委員会から

第17回絵本学会大会

絵本とアート 絵本のつくり手たち、その創造力

2014年5月31日(土)・6月1日(日)

会場：刈谷市総合文化センター

〒448-0858 愛知県刈谷市若松町2丁目104

(JR・名鉄三河線「刈谷駅」南口よりウイングデッキ直結徒歩3分)

http://www.kariya.hall-info.jp/

参加費：会員1,000円、一般2,000円(一日のみ参加の場合1,500円)、学生会員・大学生以下無料

主催：絵本学会・刈谷市美術館

共催：刈谷市総合文化センター

● 第1日目 5月31日(土)

12:00～ 受付

12:40～ 開会式

13:00～ 宇野亜喜良トーク&ライブペインティング

15:30～ 研究発表

17:00～ 絵本学会総会

18:00～ 交流会(会場：刈谷市産業振興センター401会議室)

● 第2日目 6月1日(日)

9:30～ 受付

10:00～ 研究発表

12:00～ 休憩

13:00～ 作品発表

15:00～ ラウンドテーブル

R1「瀬川康男の絵本表現」

話題提供者：松本育子(刈谷市美術館)

辻村益朗(絵本作家)

コーディネーター：広松由希子(絵本研究家)

R2「レオ・レオニの絵本づくり」

話題提供者：佐々木丈夫(公文教育研究会研究職・白百合女子大学、生涯発達研究教育センター特別研究員)

今井良朗(武蔵野美術大学)

コーディネーター：藤本朝巳(フェリス女学院大学)

R3「子どもと絵本をよみあう一かぐいひろしの絵本の場合」

話題提供者：廣田真智子・西脇由利子(絵本研究家)

水島尚喜(聖心女子大学)

コーディネーター：鈴木穂波(岡崎女子短期大学)

17:10～ 閉会式

大会期間中、学生会員(作品発表者)の作品展、刈谷市美術館コレクション展を刈谷市総合文化センター展示ギャラリーにて開催。

● 問い合わせ先

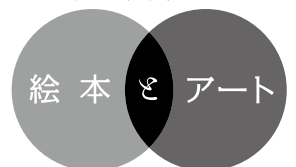
第17回絵本学会大会実行委員会(松本育子)

〒448-0852 愛知県刈谷市住吉町4丁目5番地

電話：0566-23-1636 FAX：0566-26-0511

E-MAIL: matsumoto-i@city.kariya.lg.jp

第17回絵本学会大会



2014



ありがとう えほん すごいね えっほん!

攪上久子

13

野坂悦子さんからバトンを渡していただきました。野坂さんは、JBBY日本国際児童図書評議会 /IBBY国際児童図書評議会の活動を一緒にしている仲間です。私は JBBYで「障害」のある子どもたちの図書の活動を担っておりますが、野坂さんは翻訳や紙芝居文化の国際的な普及、そして「障害」のある子どもたちにも心を寄せた活動をしてくださっています。

絵本学会には、発足まもない頃に入会させていただきました。学会発足の新聞記事を読んで、嬉しくて入会しました。1997年です。(その新聞とてあります!)事務局は武蔵野美術大学視覚伝達デザイン研究室に置かれていました。たまたまその頃、武蔵美の近くに住んでおり、会報の発送などのお手伝いを時々させていただきました。発送作業などをご一緒した方の中に、いま絵本作家さんなどでご活躍の方もいて、懐かしい思い出です。

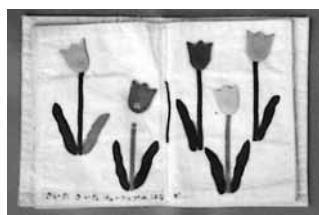
本職は、特殊教育(現在の特別支援教育)を経て、臨床発達心理士の資格を取りまして、現在は乳幼児期の母子支援のフィールドで仕事をしております。心理士が働いているフィールドは、多種多様で、命として宿る前から、高齢になって死に至り、思い出として人の心に生き続けるまで、全人生、広範囲な分野に渡っています。

<心理士>というと、臨床心理士が知名度がありますが、その臨床心理士も含め、現在主な心理士資格は複数の学会連合がもとになっている認定機構の出している資格です。人数の大きなところでは、臨床心理士(日本心理臨床学会など)臨床発達心理士(日本発達心理学会など)学校心理士(日本教育心理学会など)があります。いまこれらの心理士資格を国家資格として統一しようという動きがあります。

私は学校現場・保育現場・心理臨床現場で、「障害」のある子どもたちに向き合いながら、この子達からたくさんの絵本に出会わせてもらってきました。これらの現場では絵本は昔から大きな活躍をしてきたと思います。絵本学会では、専門の枠や場を超えた絵本研究が報告され、知り合う場にもなっていくつつあるのではないかと感じています。

写真1-4は1977年盲学校幼稚部の子どものところに届けられたふきのとう文庫の布の絵本。日本の手作り布の絵本の産声が上がった当時のものです。当時、この幼稚部では、お母さんたちが、お帰りの時間まで校内で待っているあいだの時間を利用して、市販の絵本の絵に手を加えて、我が子のためのさわる絵本を

作っていました。うさぎのしっぽの部分にふわふわを貼り付けたり、目の部分に丸いボタンをつけたり・・・その作り方は決して今日専門的な知見で言えば良いものではなくとも、子どもたちはく読んでもらうだけのえほん>とは明らかに違って、自分の頬にそのふわふわなどを押し当てて、キャーキャーいって喜んでいました。(幼い盲児は、手指でなく、まず頬でさわる子が多いです)



1



2



3

知的「障害」のある子どもたちの学校、1、2年6人のクラスで、一緒に担任を組んだ A先生は、気品のある素敵な男性でした。3歳の息子さんに絵本を読んであげることをとても大事になさっていましたが、この A先生、お帰りのお集まりのときに、必ずクラスの子どもたちにも絵本を読まれたのです。1970年代後半の話です。その時 A先生が好んで読まれた本は、こぐまちゃんシリーズやブルーナーの絵本。いまでいう赤ちゃん絵本ですが、こういった絵本が、登場して間もない頃で、色がくっきりしていて、主人公がはっきりしていて、ストーリーがわかりやすく・・・、こういう要素がある絵本を読んでもらう子どもたちの楽しそうな反応は、絵本との新たな出会いでした。



4



その後数年して、肢体不自由養護学校高等部の生徒の担任をしていたとき、絵本「あさ One morning」に出会いました。高校生の年齢の生徒たちに、たとえ、知的レベルが1歳だろうが、赤ちゃん絵本を読むことはできなかった私が、ああ、やっと見つけたと思った1冊でした。この絵本は< Picture books for Young people > で、絵本は幼い子どもたちのためのものだけではないことを教えてくれました。そして、この絵本を世に出した末盛千枝子さんその後 IBBY/JBBYで出会うとは、この時は想像もしていませんでした。

教員時代私が向き合った問題は、子どもに線を引き、学ぶ学校を分ける分離教育、さらにその分けた学校の中でも発達段階で子どもに線を引き、課題を分けて設定していく教育のありかたでした。

私は共に育つ教育=共育を求め続けましたが、そんなとき、子どもの本の出版界でも、同じようにそのことに向き合ってくれた本が次々に出版されました。偕成社です。「障害」があってもなくても一緒に楽しめる「これ、なあに？」などの絵本、知的「障害」のある止揚学園の子どもの描いた絵がつかわれた『ボスが、きた』などの絵本、共に生きる教育が実現していたスウェーデンの数々の絵本の翻訳・・・ どんなに励まされたことでしょう。1980年代の話です。

某幼稚園で出会った Yくん。自閉症の世界でたくましく楽しく生きていたこの子に私はぞっこんでした。彼は絵本が大好きで、それはご家庭のお力でした。彼がこれ面白いよと私に読んでくれた絵本が『おなら』(長新太 福音館書店)、私はこの子とこの時心がピッタリ重なって、もう大笑いしてこの絵本を楽しみました。

重症心身障害児者施設でも動かさせていただきました。ベットがほとんど毎日の生活空間の方たちと、写真絵本で季節や見たいものを一緒に楽しみました。

自閉症の傾向があるかな?とその発達を経過観察フォローしてきたたくさんの子供たちがいます。この子達の幼い時の共通特性は、人への関心があまりないこと。人と楽しむことにまだ目覚めてないこと。そのことの発達上の一つの特徴で、指さしが出てこない。でもわたしは人に関心を持ち出し、人が好きになってくれはじめた子どもたちが、指さしをし始めたそのかわいい姿を、何度も何度も目撃させていただいてきました。多くの子が「絵本」で、その指さしを見せてくれました。「日本の電車100選」のような、電車の図鑑的な絵本が圧倒的に多いです。ある時、1歳後半の子どもたちに『びよーん』(まつおかたつひで ポプラ社)の大型絵本を読んでいたとき、あのかたつむりの場面で、つかつかと寄ってきて、かたつむりを指さして、ゴニョゴニョ何か言った男の子がいました。私は絵本を読むことに夢中で、「そうだね、かたつむりさんはどうかなあ・・・」と、ふとその子を見たら、指さしをしなかったはずのBちゃんではありませんか・・・びっくりして、本投げ出して、抱きしめてあげたかったけれど、平静を装って、そのまま読み続けたのでした。

つい先日は、『もこもこもこ』(文:谷川俊太郎 絵:元永定正文研出版)の大型絵本を読むと、ちょっと人との関わりの上手でない3歳のTくんが、自分も・・・と、ちょっぴり恥ずかしそうでしたが、自分のストーリーにして、お友達たちに読んでくれました。

私は絵本から幸せなひとときを、たくさんもらってきました。絵本が嫌いな子に出会ったことはありません。ありがとう えほん すごいね えっほん!

障害の表記について

「障害」という表記を私は使っています。「障害」は、個人の身体の中にあるものではなく、社会的な関係の中で生じていくもの、捉えるべきものと考えています。カギカッコは、障害とは何か、問い直していこうという意味で、40年間このようにつけて使ってきました。



さわられたよ!もっとさわってみたいな。(1977年 さわる絵本とHちゃん)

研究委員会からのお知らせ

●2013年度研究助成について

2013年度の研究助成については、当初募集に応募がなく、再募集した結果、2件の応募がありました。ただ、2件とも内容や計画が、学会の公的助成金を受給するには不足があり、研究委員会の検討を踏まえ理事会でも審議しましたが、不採用となりました。従って、2013年度の研究助成の採択はなく、このための予算も執行できませんでした。

●2014年度研究助成の募集について

上の結果を踏まえ、2014年度は新たな気持ちで研究助成を募集します。以下の要領で実施しますので、奮ってお申し込み下さい。

絵本に関する研究会などグループによる活動に対し、研究助成金を支給します。今年度は、助成金額を1件あたり50,000円とし、3件以内について助成します。この助成は「研究活動」に対するものですが、純然たる学術研究だけに限らず、各種の実践的活動や資料の収集整理、現地調査など、「絵本学」に資すると認められる様々な活動について対象とします。

助成を希望する場合は、次の事項を明記した申請書を作成し、2014年6月25日(水)までに(必着)絵本学会事務局宛に郵送して下さい。

- ・ 研究、活動のテーマ、目的、概要など
- ・ 代表者及び構成員の氏名(学会員、非会員の別を明記)
- ・ 成果の発表、公開の予定

全ての申請について研究委員会で厳正に審査し、助成するグループを選考します。結果は、理事会の承認を得た上で、出来るだけ早い機会にお知らせします。

研究紀要委員会からのお知らせ

●絵本学会紀要『絵本学』第17号投稿論文募集について

絵本学会紀要『絵本学』第17号への投稿論文を募集します。ふるってご応募ください。なお、下記投稿規程の他に執筆要項があります。執筆要項を必ず取り寄せの上、それに従って原稿を作成してください。執筆要項の請求先は事務局です。あるいは絵本学会ホームページからダウンロードしてください。

絵本学会研究紀要「絵本学」投稿規程

◎投稿資格：絵本学会会員および準会員

◎内容：絵本に関する研究論文、研究ノート、論説、報告。ただし未発表のものに限る。

【研究論文】は、研究の視点や手法、理論展開及び結論に独創性や説得力が高く認められるもの。

【研究ノート】は、研究の基礎データになる資料、あるいは理論構築の可能性が認められるもの。

【論説】は、学術的な論で、注目すべき研究・作品・作家・展覧会・活動を取り上げての評論など。

【報告】は、活動紹介や文献紹介など。

◎掲載採択：査読に基づき、編集委員が掲載の採否を決定する。必要に応じて編集委員の外に査読委員を依頼する場合がある。採否判定の過程・理由は開示しない。ただし、投稿者は、結果について説明を求めることができる。この場合、編集委員は申し出内容を精査の上、適正範囲内で回答する。

◎執筆要領：執筆は別に定める執筆要項に従うこと。

◎投稿締切：2014年9月30日(火) (必着)

◎掲載採択通知：2014年12月15日(月)までに投稿者へ通知する。

◎刊行：2014年度内

◎原稿送付先：絵本学会事務局(郵送とする。FAX、電子メールなどによる送付は不可)

絵本学会紀要『絵本学』へ投稿を希望される方は、執筆要項をよく読んで、原稿を作成してください。特に、原稿分量にご注意ください。絵本学会紀要『絵本学』は第1号以来、同じ書式で作成しています。註・引用文献・参考文献を含め、研究論文であれば7ページ半、研究ノートであれば5ページ半、その他は3ページ半で収まるように作成してください。はじめの半ページは、表題、執筆者名、所属、専門分野、和文・英文抄録等を記載するために使用します。

なお、図版にカラー印刷を希望する場合は、執筆者の実費負担となります。

広報委員会からのお知らせ

現在、絵本学会ホームページに「絵本学会サロン (facebook)」を試験的に設けています。情報の交流を行うことが目的ですが、会員の皆さまのご意見などをうかがい、本格的に運用できればと考えております。

将来的には、ホームページの主な目的を「ドキュメント保管」「オンライン事務局」とし、広報機能の充実と情報の交流は、ソーシャルメディアの活用を図ることを検討しています。

「絵本学会サロン (facebook)」は登録制で、展覧会、出版、研究会・公開講座、トークショー、勉強会、などの情報告知に限定し、個人的見解の発表や特定課題に関する議論の場にはしないことを現在はお考えています。